

北日本大学王座決定戦・パインボウルの勝者・北海学園大と、関東大学リーグ1部・ビッグ8優勝の慶応大が対戦するホワイトボウルが12月20日、東京・アミノバイタルフィールドで行われ、北海学園大は0-76で完敗した。40年ぶりの関東勢との公式戦対決だったが、攻守に力の差を見せつけられる無念の一戦となった。

試合は開始早々から慶応大の攻撃が爆発した。最初の攻撃シリーズでエースRBが負傷退場したものの、3年生QBのパスと4人のRBで着実にゲインし、第1Q3分にあっさりとした先制TD。同9分には1年生QBの指揮で2本目のTDを挙げた。慶応大は第2Qにも4TDを加えると、後半も第3Qに1TD、第4Qに4TDを追加した。



パインボウルから4週間ぶりの試合となった北海学園大は、7点を追う最初の攻撃シリーズでいきなり、QB小笠原丈瑠（2年、北海高）がサックされる波乱。エースRB阿部龍太郎（4年、室蘭栄高）のダイブも進まず、パントに追い込まれた。14点差を追う2度目の攻撃シリーズは、RB阿部のランで第1ダウンを更新したが、続く4回の攻撃で敵陣30ヤードまで進むのがやっと。第2Qも4回の攻撃シリーズを得たが、パントが2回、第4ダウングャンブル失敗、パスインターセプトで得点を奪えなかった。

北海学園大が意地を見せたのが第3Q。2人目のQB河合祐輔（2年、札幌第一高）がエースWR佐藤玲太（3年、札幌光星高）、RB山本遼太（2年、札幌国際情報高）、TE稲葉海斗（2年、常総学院高）にパスを通して敵陣7ヤードまで前進。TDを狙って投じたパスが、エンドゾーン内で相手DBにインターセプトされ、絶好の反撃機を逃した。第3Qは守備陣も奮起し、LB竹内佑至（4年、旭川明成高）、DL坂本大弥（4年、札幌開成高）、DL井利元宙夢（4年、江別・大麻高）、DB永井峻（4年、札幌光星高）、DB岩瀬竜哉（3年、江別・とわの森三愛高）らがハードタックルを見せ、LB竹内がファンブルリカバーで攻撃権を奪う場面もあった。守備陣は第4QにもLB竹内とDL藤田文慈（2年、札幌手稲高）、DL大弓陽太（1年、札幌厚別高）が相次いでQBサックするなど意地を見せた。

北海学園大の高木幸樹ヘッドコーチは「TDを1本取れるかなと思ったが。チームとしての力すべてに差があった」と完敗を認めた。OLの中心としてパインボウルでも活躍した本間航史主将（4年、札幌東高）は「ラインで勝負したが、自分たちのリズムに持って行けなかった」と悔しがり、DL坂本も「相手ボールキャリアの足のか



きかたの力強さなど北海道との違いを実感した」と残念がった。

厳しい敗戦となったが、下級生たちはこの経験を来年につなげようと誓った。4回のパス捕球で57ヤードを獲得し、キックオフリターンでも3回で59ヤードを獲得して敢闘賞を受賞したWR佐藤玲太は「スター選手が少なくても全員のレベルが高かった。人数の多さもアドバンテージだ。来年は部員を増やし、選手全員のサイズアップもする」と決意。QB小笠原も「相手にリズムを乱されず、チームをしっかりと引っ張るQBになりたい」と言い切った。（北海道学連広報委員 塚田博）

